



FURUSATO ! 3月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

～マレーシアについて～



私の故郷はマレーシアのサバ州です。マレーシアは、マレー半島とボルネオ島（世界で3番目に大きい島）の2つに分かれています。その中に14の州があり、サバ州はボルネオ島に位置します。



～宗教～

サバ州にはいろいろな宗教の人がいます。1番多いのはイスラム教です。他にもキリスト教、仏教、ヒンドゥー教の人もあります。約30もの部族がいて、言語も50種類以上あります。

～食べ物～

サバ州も伝統的な食べ物がたくさんあります。クイーチンチン（米粉のお菓子）や、ピナサカン（魚のスープ）や、ヒナバ（魚の料理）や、ブットド（サゴ虫）や、アンブヤット（ヤシの殻から作った片栗粉のようなもの）などの食べ物があります。日本にはない果物も多いです。



ヒナバ



アンブヤット

～オイスカの職員として～

17年前に私はオイスカ四国研修センターの研修生として有機農業を勉強しました。現在は職員として来日していますが、昔の経験と、再来日して新しく学んだことを研修生に教えてあげたいと思っています。



※月刊「OISCA」3月号「スタッフ日記」にも登場！ぜひそちらもご覧ください。



緊張しましたが楽しかったです。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



四国センターでの節分

2月3日は、「節分」ということでセンターでも恵方巻を食べて豆まきをしました。例年は、家政研修生が恵方巻を作ってくれますが今はいないので、今年は私が恵方巻作りに初挑戦しました。調理担当の菅原さんに教わりながら作っていきます。まんべんなく具材をつめ、巻く時も崩れないように巻いていくのを意識しました。初めて割には上手にできたのではないかと思います。今年の恵方は「北北西」。各自、恵方を向いて祈りながら食べました。昼食後は、センターにも鬼がやってきて追い払いました。私の地元である青森を含めた東北地方では、節分の時は、大豆ではなく殻付きの落花生を使用します。地域によって習慣が違うことの面白さを実感しました。そんなことを考えていると鬼はどこかへ行ってしまういました。立春が過ぎたとはいえ、まだまだ冷え込む時もあるので、体調を崩さないで過ごしていきたいと思います。今年もセンターに福が訪れますように。（金澤）



美味しく出来ました！



春夏野菜の準備中



2月から春夏野菜の播種を開始しています。気温が低く、発芽しにくいですが、それはそれで面白くてやりがいがあります。今年植える主な作物は、キュウリ・ナス・ミニトマト・インゲン・ジャガイモ・サツマイモです。収穫期間が長いので、これらの野菜を選びました。また、小松菜・ほうれん草などの成長の早い野菜を植えたいです。

現在はダイコン・ニンジン・ゴボウ・キャッサバなどの根菜も植えています。大変ですが、センターの利益を上げるために農業チームのみんなが最善を尽くしています。

今年は、センターに100aほどの田畑が増える予定です。田畑が増えてうれしいですが、問題があります。それは私たちが使用している農業機械が古く、時々うまく機能していないことです。スムーズに農作業を行うために新しい機械を買い揃えるように頑張りたいです。（デニス）



もう少ししたら稲作にも取り組んでいきます

3月の予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
2日	水	支部常任幹事会	四国支部	四国研修センター
7～9日	月～水	3センター合同農業研修会	オイスカ本部	西日本研修センター
13日	日	忽那山植林	愛媛県推進協議会	忽那山（松山市）



「FURUSATO !」3月号 発行
公益財団法人 オイスカ四国研修センター
〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL 087-876-3333 FAX 087-876-3334
E-mail: oiscastc@oisca.org

古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト



四国支部 各推進協議会 会長の「オイスカへの想い」 -その1-



高松推進協議会
会長 松野 誠寛

私がオイスカに入会したのは、2013年4月のことでした。ライオンズクラブの付き合いで知り合った、石井淑雄氏(前四国支部会長の薦めでした。「とりあえず坂出(推進協議会)におりまい」と言われて、入会しました。この時は、オイスカは政府機関のJICA同様、海外の発展途上国で貢献している団体という程度の認識だけでよく知りませんでした。

その私にスイッチが入ったのが、2017年9月にパプアニューギニア(以下PNG)のラバウルエコテック研修センター開設30周年記念式典へ参加したことがきっかけです。日本での式典の次第とは全く違い、来賓一人の挨拶の後、周辺部族の踊りが始まります。1チーム数人程度の人数です。よくよく見れば、ペインティングも違い、衣装も踊りも違うのです。彼らはオイスカの記念式典に、精一杯の出費をして駆けつけてくれていました。

「PNGでは、奥地に行けばまだ人食い人種がいます。しかしOISC Aのマークを付けていたら、喰われることはありません」と、嘘か誠か定かではない説明が現地人からありました。「そうかオイスカは30年間、ここに根を下ろして役立っているのか」と合点しました。オイスカは現在36の国と地域に組織を持つ国際NGOです。日本国内には4つしかない研修センターの1つを、四国支部(泉雅文会長)は維持運営しています。

9つの下部組織の一つ『高松推進協議会』は、文字通り四国研修センターを支える母体の一つです。私はそれを預かる者として、『ポパイ』を目指しています。困っている人がいれば必ず駆けつけ、急場を解決するのです。センターで育てたほうれん草を食べて、高松推進協議会は頑張ります。



三豊推進協議会
会長 稲田 覚

オイスカに入会して40年以上となりましたが、入会当初は、オイスカとは何なのかもよく解からず四国研修センターの活動に参加することだけでした。

センターからアジア各国のオイスカセンターへ見学ツアーがあるので参加しませんかと声が掛かり、何ヶ国も同行させてもらいました。家業が農業機械の製造会社でしたので、アジアの農業にも興味がありました。

現地のセンターへ着くと、オイスカの存在意義が直ぐに理解できました。指導の難しさ、厳しさにも耐えて頑張っているオイスカマンに出会って感動を受けました。日本から指導に来ているオイスカの人達と話をすると、自分の事だけしかやっていない私のような人間では恥ずかしいと、カルチャーショックを受けました。

その後、自分の会社でアジアの工業研修生を受入れ、育ててみることにしました。その研修生達が同世代の若い社員達や通勤途中の御近所の人達へのふるまいの中で彼等の家族愛や母国への愛情という日本人が忘れていたものを教えてくれたのです。彼等は帰国後も日本での勉強を生かし、国のリーダーとして活躍しています。

1990年頃に、前中野良子総裁とお話ができました時、21世紀は日本の子供達をどのように教育するかがオイスカの課題ですよ、アジアの若者は目標を見つけたようですからと仰言られた言葉が今も私の頭にあります。

オイスカ活動を通じて学べた事は、利他の精神が家族を支え、国をつくり、平和をつくれるということでした。

次代の日本のためにも人づくりをしたいものです。

フィリピンから台風被害状況をお知らせします

リッチー



お久しぶりです！職員として3年間四国研修センターにいたリッチーです。2019年に帰国しその後オイスカバゴ研修センター(以下、センター)で働いています。私の仕事は山岳地帯の養蚕農家の様子を見ることです。またセンターで運転手を務めています。コロナウィルスによりスタッフが辞めてしまったため、いろいろなことをしなければならない状況です。

台風が発生し、センター

の蚕の養殖場、その周辺に住んでいる人たちの家などが多くの被害に遭いました。が、みんな無事でした。

現在はオイスカの仕事だけでは生活していけないので、レンタカーサービスでアルバイトをしたり、市場で肉屋をしています。1日が忙しいですけど家族のために頑張っています。

最後になりましたが、台風で被害を受けセンターに寄付をくださった世界中のオイスカファミリーに感謝いたします。ありがとうございました。また会えることを願っています。



研修センター内の写真です。
木が飛んできて屋根が壊れたりしています。

くオイスカ60周年記念・環境問題の啓発・植林事業く
「三豊市宝山湖公園(ボールパーク)」植林事業

四国支部では、毎年「山・林・SUN体験」ボランティア活動を通して植林、植育の活動を1995年から実施しています。この度は、令和3年度宝くじ桜寄贈事業による助成を受けて、桜の植栽、育成、手入れなど自然環境の保全という公益活動の一環として、「宝山湖公園(ボールパーク)」付近に桜を植栽することにより、大勢の市民や子どもたちがこの場所を訪れ森や植林・自然環境に対する気付きなど環境問題の啓発に繋がることを願い植林事業を実施しました。

天皇誕生日である23日(水)に三豊市山本町にある宝山湖(香川用水の調整池)の広場に桜の苗木60本(陽光30本、染井吉野20本、普賢象10本)を植樹しました。当日は、天候にも恵まれ地元三豊市の山下市長、浜口議長、長尾教育長と斉藤県議会議員、地元選出の衆議院議員 大野敬太郎氏も参加するなど、オイスカ会員を含めて65名が苗を植え、支柱の設置等で汗を流しました。今後は、年に2回以上の下草刈りや成長に伴う追肥などを行います。また、オイスカ三豊推進協議会が中心となって管理を行います。また、三豊市と地元の皆さんとの協力、連携も図ってまいります。

干ばつの際には県民の2週間の飲料水の備蓄湖である「宝山湖」と森、また子供の夢と市民健康のための三豊市宝山湖ボールパーク構想の中心として「子供の森」計画の役割も果たしたいです。

(四国支部チエ)



～植樹風景～